

## 「海洋生分解性プラスチックの社会実装に向けた技術開発事業」に対する パブリックコメント募集の結果について

2020年5月14日

NEDO

材料・ナノテクノロジー部

NEDO POSTにおいて標記基本計画（案）に対するパブリックコメントの募集を行いました結果をご報告いたします。  
貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

1. パブリックコメント募集期間  
2020年3月18日～2020年4月1日
2. パブリックコメント投稿数＜有効のもの＞  
計1件

3. パブリックコメントの内容とそれに対する考え方

ご意見の概要	ご意見に対する考え方	基本計画・技術開発課題への反映
<p>1. 研究開発の目的・目標・内容                      (2) 研究開発の目標                      ①アウトプット目標</p>		
<p>[意見1] (1件)                      ・当社は今まさに海洋生分解性プラスチック複合材の開発を都立産技研とおこなっており、成形性と海洋生分解性を持つ材料の基礎検討の目処を見つけてつあります。</p> <p>研究開発項目②-2「複合化技術等による海洋生分解性プラスチックに関する新技術・新素材の開発」の最終目標につきまして意見を述べます。</p> <p>[最終目標]・海洋生分解性プラスチックの新技術、新素材の試作等により、コスト、機能、性能等の面で、従来の汎用プラスチックと比べて総合的に競争力があることを示す。</p> <p>・「従来の汎用プラスチックと比べて総合的に競争力がある」という目標は高すぎるといわざるを得ません。例えば年間250万トンも製造しているポリプロピレンと海洋生分解性プラは、原料も製造工程も全く異なるものなのです。当然このベースとなる樹脂の価格は現在でも数倍、モノによっては10倍に近い単価のものです。たとえ20万トンの製造能力であってもポリプロピレンとまともに競争できる価格は不可能といわざるを得ません。</p> <p>・海洋生分解性プラは適材適所に使用すべき材料であり、何かの用途・使い方をターゲットにして開発すべき材料と考えます。何から何まで汎用プラに置き換えられるモノではありません。長い歴史と知恵で開発された現在の汎用プラの地位を、高々数年で開発するのは無理・無謀な目標といえます。</p> <p>・せめて、「コスト、機能、性能面で海洋プラごみ汚染を減少できる用途で実用化した物品を示す。」くらいに留めて戴きたいと思います。</p>	<p>[考え方と対応1]                      貴重なご意見ありがとうございます。                      頂戴いたしましたご意見の通り、海洋生分解性プラスチックは非常に難しい技術であり、全ての汎用プラスチックを簡単には置き換えられません。プラスチックごみ対策の面でも、リサイクルと合わせて、海洋流出の可能性のある製品への適用が有効で、海洋生分解性プラスチックは、適材適所に使用されるべき材料です。                      研究開発項目②-2「複合化技術等による海洋生分解性プラスチックに関する新技術・新素材の開発」については、既存の樹脂との複合化や充填剤等の開発を行い、その社会実装を通じて海洋プラスチックごみの追加汚染を無くすことを目的としているため、後期2年間は実用化開発期間に位置付け助成事業として実施する予定です。                      汎用プラスチックとの比較に関しましては、特定の用途・使い方も考慮した上で、海洋生分解性も含めて総合的に比較することが重要と考えています。                      是非、実用化を見据えたご提案をよろしく願います。</p>	<p>[反映の有無と反映内容1]                      ・特になし。</p>

以上